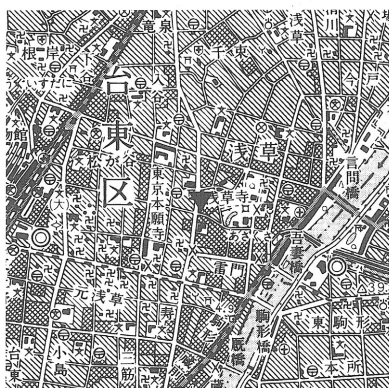


東京・台東区 No.68 遺跡

（たいとうく）

- 1 所在地 東京都台東区浅草一丁目
- 2 調査期間 二〇〇二年（平14）八月
- 3 発掘機関 台東区文化財調査会
- 4 調査担当者 小俣 悟
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

台東区No.68遺跡は台東区の東側、区境である隅田川の西岸微高地の西方に位置し、東京低地西側に立地する。JR常磐新線（仮称）



（東京東北部）

新浅草駅出入口建設に伴う調査である。当地周辺は近世以前は湿地が広がっていたものと思われ、近世には浅草寺境内であり、嘉永三年（一八五〇）近江屋板「下谷浅草箕輪山谷辺図」では「火除地」あるいは「田地」とある。

主要な遺構確認面が三面あり、検出遺構は建物基礎・井戸・溝状遺構・土坑などである。特徴的な遺構として大型の長方形土坑群が見られる。また最下層には牡蠣殻の堆積層が確認されている。大型の長方形土坑は牡蠣殻層から牡蠣を採取した遺構とも推定される。

木簡は大型の長方形土坑（第三八号遺構）から出土した。この土坑の推定廃棄年代は一九世紀第三四半期である。なお、その遺構群の中を抜ける溝状遺構（第一九号遺構）からは、焼印のある桶蓋（径一一〇mm厚一〇mm）が出土した。桶蓋に栓孔があることから液体の容器と思われる、焼印はその商標と推測されるが、「〇」の中の文字は積読できない。第一九号遺構の推定廃棄年代は一九世紀第三四半期である。他に貝殻（ハマグリの内面）などに墨書のあるものが見られる。

出土遺物は独楽・魚籠などの木・竹製品のほか、多量の近世・近代陶磁器などである。また特徴的な遺物では台東区内の土器焼きとして著名な今戸焼関係の刻印を有する焜炉などがある。

8 木簡の积文・内容

(1) 「鳶  
□吉人」

30×60×5 011

小型の板材で、裏側が二次焼成によりかなり炭化している。左上を大きく欠損しており、その部分に一字あった可能性がある。内容

は鷹の人数か番号などを示唆すると思われるが、確証はない。何らかの札と推測されるが、丸く反っており違和感がある。またミニチユアの桶とも思われるが、厚さが一様ではなく他の部材もみられず判断し難い。

9 関係文献

台東区文化財調査会『台東区No.68遺跡』(二〇〇四年)

(小俣 悟)

